

授戒会について(2)

広蔵寺では開山四百回忌を迎えるにあたり、昭和三十八年以来、五十年ぶりに、報恩のお授戒会を修行いたします。「授戒会」(じゅかいえ)は正しいみ仏の教えを聞き、心で信じ、身体で行じて身も心も清らかになり、生きながら仏様にさせていただく曹洞宗最高の法要儀式であり、有り難い「お勤め」です。

お戒名(かいみょう)

現在では、ほとんどが葬儀において戒法を授けられ、戒名をいただいています。元気なときに戒名を授かり、自分の戒名を知って、戒名をいただいた仏教徒としてふさわしい生き方をすることが本当は望ましいのです。

大授戒会

平成二十五年

六月十九日(二十三日)

戒金 三万円

因脈授与 一万円

亡戒血脈 五千円

*募集百五十名

広蔵寺授戒会では、戒師でありま

す大本山永平寺副貫首、南澤道人老師より直々に「お戒名」を付けていただけれます。戒名は死者に与えられる名前と思われているかも知れませんが実際は違います。キリスト教徒は幼い頃に洗礼を受けて「クリスチャンネーム」をいただくとの事ですが、これは仏教でいえば、「お授戒会について戒名をいただくこと」となります。つまり、戒名は『仏教徒としての名前』であり、仏教徒とは「世界に通じる仏教の教えを道標として正しく生きている人」ということであり、五日間のお授戒会に参加しその教えをいただいた人がお戒名をいただくこととなります。

お血脈(けちみやく)

「お血脈」はお釈迦様の教え「戒法」を受け継がれてきた歴代のお祖師様方の系譜であり、お戒名をいただきますと、この系譜に名前が載るのであって、お戒名をいただいたことの証でもあります。つまり、確かに仏教徒であるという『仏教徒としての身分証明書』であります。

お授戒(じゅかい)の意味

「授戒」とは字の如く「戒を授かる」ことです。「戒」は「仏さまのみ教え」と解釈して下さい。一般的には「戒法」というと、「ああしてはいけない」とか「こうしない」と言うような自由を束縛するような規則、禁欲的な堅苦しい響きでイメージされると思いますが、み仏の戒法は「人皆が守るべき道理」のことであり、これによって自分を律し苦悩から解放され、本来の生き方ができる教えのことです。み仏の戒法こそ仏教のいの中であり、この「み仏の教え」を守ることは、『お悟りを開かれたお釈迦様の生命を受け継ぐこと』と言えます。五日間の授戒について、そのご修行の証しとして「お戒名」「お血脈」をいただきます。お授戒会は、「本山永平寺さま、總持寺さまでは毎年修行されておりますが、一般寺院では滅多に出会うことはできません。お檀家以外、どこにお住まいの方でも、老若男女どなたでもご参加いただける有り難い「み仏の修行」であります。

写経(般若心経)を始めませんか!

期日 毎月第二日曜日(1月2月はお休み)

時間 午後1時~随時(午後4時終了)

参加予約不要 イス席 筆ペンも可

参加費 納経料300円

*筆、硯、墨等の準備はありますが、使い慣れたものを持参していただいても結構です。写経台紙(手本)、写経用紙はこちらでご用意いたします。

*時間内のいつでも写経できます。(1時間位)

5/9(日) 6/13(日) 7/11(日) 8/8(日)

写経は私達の先祖から受け継がれてきた浄行として、今もなお多くの人々によって根強く信奉されています。わが国での写経の歴史は、日本書紀に、「書生を聚めて、始めて一切経を川原寺に写す。」とあり、その後、聖武天皇のころ、写経司を任命し、これら専門のものが書写して収蔵し、また、諸国の国分寺等に配布されました。それがおそらく平安時代ごろから、修行の為や、病氣平癒、先祖供養など祈りや願いを目的にした個人的写経が始められたようです。このように写経には長い歴史があり、多くの人の信仰生活に心のやすらぎを与える糧となってきました。それは身と心を調べて行う写経のところが、そのまま仏さまの教えの心に通うからにほかならないのです。「経を写す」ただそれだけの浄行です。

写経会 毎月(1月2月を除く)第2日曜 時間午後1時~随時(16時終了)都合付く時間にできます。